

テクノポリスの空の下、乙女心は乱れる。



RIE TOMOSAKA AS REIKO

INUKO INUYAMA AS KARAE

YU AOI AS RIKU

IN

1980

A KERALINO SANDOROVICH FILM



ケラリーノ・サンドロヴィッチ第1回監督作品

ともさかりえ 犬山イヌコ 蒼井優

串田和美 みのすけ 山崎一 田口モロヲ 及川光博

橋本真実 吉永雄紀 峯村リエ 三宅弘城 松永玲子 大倉孝二 勝地涼 大山鎬則

友情出演: 秋山菜津子 綾田俊樹 伊武雅刀 忌野清志郎 江波杏子 掬ボルシェ 坂田聡 鈴木慶一 手塚とおる 長塚圭史 温水洋一 ビエール瀧 広岡由里子 マギー ロマン優光 B&B 蛭子能収(イラスト)

監督・脚本: ケラリーノ・サンドロヴィッチ 音楽: 岸野雄一 プロデューサー: 林哲次、榎本憲男

製作: 東北新社/東京テアトル/キングレコード/博報堂/TOKYO FM 配給: 東京テアトル 配給協力: 東北新社 2003年/日本/ビスタサイズ/123分

<http://1980-movie.jp>





RECOMMEND!

ハチマルにワープだ! ポップ、ファニー&せつない、三拍子揃った三姉妹ムービー。

ケラリーノ・サンドロヴィッチが初めて映画を撮った。そう。その動員&影響力において日本の演劇界をフレッシュ方面ヘリードする「ナイロン100℃」の作・演出家だ。映画は、1980年の東京で暮らす羽柴三姉妹を中心に描く。岡崎京子のエイティーズ漫画の傑作「東京ガールズ・ブラボー」(90/93)へのオマージュでポップに幕を開け、数々のファニーなシーンを経て、ニュー・ウェイヴ版小津、あるいはウディ・アレン「インテリア」(78)のコメディ・ヴァージョンのような「せつない」余韻を残して終わる。ともしかりえ(「クロエ」01)は、デタラメに男に惚れっぽい元アイドルをセクシーかつコミカルに好演。蒼井優(「リリィ・シュシュのすべて」01)は、聖子ちゃんカットで全力投球。エキセントリックな役が多かったナイロン100℃の看板女優、犬山イヌコのナチュラルな演技も素晴らしい。10代、20代、30代——いくつになっても訪れる「女の子なんだもん」的な気持ちや、3人は絶妙に演じている。おっと。

男子の観客は、蒼井演じるリカの「おっかけ」をするテクノポップ少年・衣笠目線で、むくわれぬ愛に涙しよう。絶妙といえば、及川光博の演歌出身の歌手! 当て書きされたようなハマリ具合だ。その他、82年にニューウェイヴ・テクノバンド“有頂天”を結成し、元祖インディーズ・レーベル「ナゴム・レコード」を運営したKERA人脈による豪華「友情出演」陣もうれしい。監督は時代考証にこだわり、でかい留守番電話、スライム、ウォークマン(ファースト・モデル)、YMO「ライディーン」(79)……と、80年12月までに存在したモノだけで画面を構成した(一部演出意図で例外あり)。しかし、映画が描き出すのはノスタルジーというよりも、ジョンの死からコンピュータ・ミュージックへ向かう「過渡期の世界」に生きた人々への優しい眼差しなのだ。

文: 川勝正幸

STORY

レノン死すとも、LOVEは死せず。女の子の数だけ悩みはある。

1980年12月9日。ニューヨークでジョン・レノンが暗殺された翌朝であったが、東京都内の星隆高校では何事もなかったような登校風景が……と思いきや、アイドルの一之江キリナ(ともしかりえ)が校舎へ入っていくのに生徒たちが気づいて騒然となった。

キリナ(本名: 羽柴レイコ)は1年間の失踪後、芸能生活に見切りをつけ、母校で英語の教師をやらうと教育実習にやってきたのだ。困ったのは羽柴リカ(蒼井優)と歌川カナエ(犬山イヌコ)である。星隆高2年のリカは姉の授業を受けるハメに、星隆高教師のカナエ(旧姓: 羽柴)は異常に男に惚れやすい体質の妹が同僚になってしまうからだ。

しかも、羽柴三姉妹はそれぞれ問題を抱えていた。リカはボーイフレンドで映画研究会OBの室井のために、今年の映研の映画でヒロインを演じていたが、最終日にはヌードにならなければならないシーンがあった。カナエは夫の久男(みのすけ)がメーバン喫茶に行った(らしい)ことがきっかけでケンカ、実家に帰ったまま引っ込みがつかない。レイコは元・マネージャーの瀬戸(田口モロロ)が自分についてのあることないことを書いた暴露本を出版するのでキレかかっている。

そんな三者三様の乙女心も知らずに、300万円もかけた自主制作映画の撮影はどんどん進み、久男に電話をかければ留守番電話だし、暴露本「ロンリー・ドール」はベストセラーになりそうな勢い。おまけに、レイコは元・恋人の歌手・東馬健(及川光博)と再会してしまう。果たして羽柴家は無事に年を越せるのだろうか?

MESSAGE

あの三人も大絶賛!

くだらないほど切なくて、くだらないほど暖かい、くだらないほど笑われ、くだらないほどたくましい、要はくだらなく素敵な映画だ。……………オダギリジョー

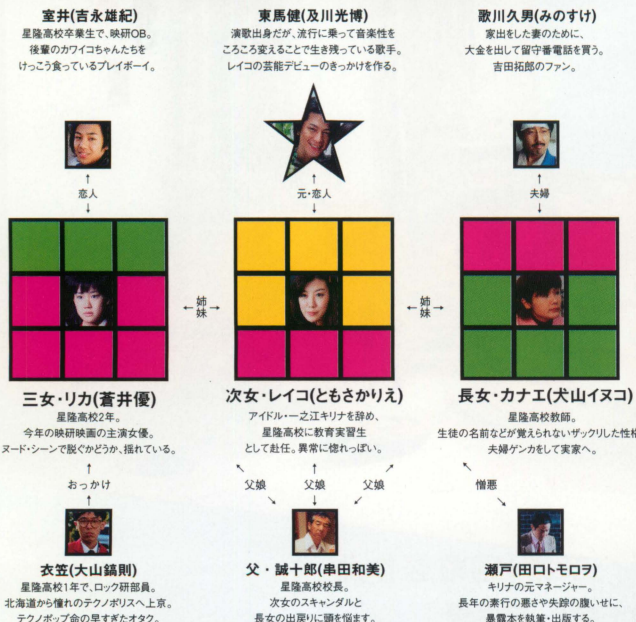
貴男の創る世界に何故だか結局ドキドキさせられ続ける自分の感性に乾杯……。イケずー! ………………氣志團・綾小路「セロニアス」翔

切なくて胸が苦しくなり、楽しくてゲラゲラ笑い、皆がキラキラ輝いていてハッピーな気持ちになりました。……………奥菜恵



CHARACTERS

羽柴三姉妹の世界



2004年1月ロードショー!!

特別鑑賞券1,500円(税込)好評発売中!!

劇場窓口でお買い上げの方には「1980ルービックキューブ・ステッカー」をプレゼント!(先着限定)

当日料金 一般1,800円/学生1,500円/小・中・シニア1,000円

★火曜日はレディースデー女性の方1,000円/毎月1日は映画サービスデー1,000円均一

大丸東側 神戸朝日ビルディング B1F

シネリーブル神戸

078(334)2126

www.nikkatsu.com

上映期間と時間は劇場までお問い合わせ下さい。



各回自由席入替制